

解答編

英語

I **解答** [A] 1-ア 2-イ 3-ア
[B] 4-エ 5-ウ 6-ア

◆全訳◆

[A] 《パーティーの片付けに取り掛かる親子》

A: パパ, 楽しい午前を過ごしたわ。友達を招待させてくれてありがとう。

B: 楽しい時間を過ごせたのはよかったけど, お前たちが散らかしたこの有様を見てごらん!

A: ああ, そうね, ごめんね, パパ。私がすぐに片付けるのはどうかしら?

B: そうしてくれるとありがたいね。じゃあ, 私も手伝おうか。私が午後仕事に出かける前に済ませてしまおう。

A: 私は何をしたらいい?

B: 私が皿を洗う間にお前がテーブルをきれいにするのはどうだい?

A: でもパパ, パパは乾燥肌だから, 水に手を入れないようにしないとだめよ。

B: ああ, それはすっかり忘れていた。そうだね, お前が代わりにしてくれるなら, 実際本当に助かるよ。

A: 分かったわ, それでこのプラスチックのコップはどうすればいい? ゴミ箱に直行かしら?

B: いや, それはもう一度使えるから, 他のお皿と同じようにしてくれ。

A: いい考えね, だってそうしないと随分無駄なものね。

B: 確かに。できるときは物を再利用するために, 何としても最善を尽くさなきゃな。

A: じゃあ, 始めるわね!

[B] 《テーマパークの入場受付にて》

A: こんにちは。ファンランドへようこそ。

B: こんにちは。大人2人と子供2人のチケットをお願いします。

A: 誠にありがとうございます。お子様はどちらかもう12歳でしょうか?

B: ええっと、上の息子はあと1週間で12歳になります。

A: ああ、それなら、ファミリーアフタヌーンパスを取るのがよろしいかと思えます。そのパスは、大人2人とその年齢未満の子供2人が対象なんです。

B: そうした方が安いですか? お金を節約できるならいつだって嬉しいですよ。

A: そうですね。ただ、このパスは午後3時からしかご利用いただけません。

B: なるほど。でも、そうするとパークへの入場が遅くなりますね。

A: もしお待ちになってもよいのなら、実はその間にこの辺でできるいいことがありますよ。

B: うーん、まあ、アイスクリームでも食べに行こうかな。

A: でしたら、もしよろしければそれをお求めになるのにぴったりの場所をお薦めできますよ。

B: ありがとう、とても助かります。

◀ 解 説 ▶

[A] 1. 次に続くBの発言に注目。That'd be appreciated. 「そうしてくれるとありがたいね」とあることから、Aは何らかの申し出をしたことが分かる。ここでウ。Please let me invite my friends over again sometime. 「いつかまた友達を招待させてね」と、エ。Would you mind cleaning it up for me? 「私の代わりにそれを掃除してもらえるかな?」の2つを候補から外す。さらにBの発言を見ると、後半に we'll have it done before I leave for work this afternoon. 「私が今日の午後仕事に出かける前に済ませてしまおう」とあることから、イ。I'll get it all cleaned up after my English class this evening. 「今晩英語の授業の後、私がみんな片付けるわ」は不適だと分かる。したがって、正解はア。How about I clean it up immediately? 「私がすぐに片付けるんならどう

かしら?」である。ちなみに How about の後ろは名詞を置くのが原則だが、口語では本問のように How about (if) SV ~? という形を取ることもある。

2. 空所にはAの発言 What should I do? 「私は何をしたらいい?」に対する返答が入る。その返答に対するAの「でもパパ、パパは乾燥肌だから、水に手を入れないようにしないとだめよ」という発言に注目。ここから、Bは水に触れる作業を申し出たと分かる。したがって、正解はイ。「私がこの皿を洗う間にお前がテーブルをきれいにするのはどうだい?」である。
ア。「皿を洗ってもらえるかな、私はテーブルを綺麗にするから」、ウ。「お前がゴミを出してくれたら、私はこの服を全部床から拾うよ」、エ。「お前はこの散らかっているのを片付けなさい、そうしたら私はゴミを出してくるから」では、いずれもB(=父)の作業が乾燥肌に影響を及ぼすことはないので不適。

3. 空所後のBの発言に注目。まず、For sure. 「確かに」と同意する表現で返していることから、Aは空所で何らかの意見や感想を述べたと考えられる。よって、単なる提案・申し出に過ぎないウ。「じゃあ、私はそれを缶や瓶と一緒に袋に入れるわね」は不適。また、この選択肢は空所前のBの発言「それはもう一度使えるから、他のお皿と同じように扱っておくれ」という発言とも合わない。正解の決め手となるのは、For sure. に続くBの発言「できるなら物を再利用するために何としても最善を尽くさなきゃな」である。この返答につながる最も自然な選択肢はア。「いい考えね、だってそうしないと随分無駄なものね」である。イ。「捨てることができるものを買う方がよかったかもしれないわね」、エ。「まあ、それなら私はそれらを洗う必要がないわね」ではどちらも文脈に合わない。

[B] 4. 空所は、Aの「お子様はどちらかもう12歳でしょうか?」に対するBの返答。Aはこの返答を聞いて、「ファミリーアフタヌーンパス」をBに勧め、「それは大人2人とその年齢未満の子供2人が対象なんです」と述べている。「その年齢」とは、空所前のAの発言から「12歳」を指していることが分かるので、Bは空所で「自分の2人の子供はどちらも12歳にはなっていない」ということを示唆する内容を発言したと考えられる。したがって、正解はエ。「ええっと、上の息子はあと1週間で12歳になります」である。ア。「実は、下の息子だけまだなんです」、イ。「実際、う

ちの子供はどちらもすでにそうですよ」, ウ. 「実は, 今日は下の息子の12歳の誕生日なんです」では, いずれも「子供は2人とも12歳には達していない」という条件を満たさないので不適。

5. 空所後のBの発言の2文目に注目。That'd delay our entrance to the park though. 「でも, そうなるとパークへの入場が遅くなりますね」とあるが, 主語のthatは空所でAが述べた内容を指している。したがって, 正解はウ. 「でもそれは午後3時からしかご利用いただけません」である。ア. 「そしてまさにここに本日ご利用いただける最後のチケット一式がございます」, イ. 「そしてそれは今の時間帯はとても人気のある選択肢なんです」, エ. 「でも, 午後3時までしかお売りしていないんです」は, いずれも家族のパークへの入園を遅らせる原因とはなり得ないので不適。

6. 空所後のAの発言に注目。「そういうことでしたら, もしよろしければそれをお求めになるのにぴったりの場所をお薦めできますよ」と述べているが, “an excellent place to get one” とあることから, 空所でBがした発言は, 代名詞oneが指す名詞を含み, かつそれをBがgetしたいと述べる内容になっていると分かる。したがって, “get an ice cream” という表現を含むア. 「まあ, アイスクリームでも食べに行こうかな」が正解である。直訳は, 「私たちはアイスクリームを買いに行くことができるだろうと私は思う」だが, I suppose (that) ~は, 確信のなさ・不機嫌・不本意な同意など, 感情的に何らかの含みを持ちながら「思う」を表す表現。イ. 「まあ, ちょっと車まで戻って待とうかしら」, ウ. 「待たなければならぬのなら, そのチケットは買わないと思うわ」, エ. 「何かいい提案があるのなら, 興味があるわ」ではいずれも文脈に合わず, また代名詞oneの指す内容として適切な名詞が見当たらないため不適。

II 解答 7—ア 8—イ 9—キ 10—エ 11—オ 12—カ

◆全 訳◆

《英仏海峡トンネルの開通》

イギリスとフランスを結ぶ海底トンネルを建設するという案は, 1802年に初めて提出された。実際にこのようなトンネルを建設しようとする最

初の試みは1881年に始まったが、イギリスの国家安全保障が脅かされるとの懸念から、その計画は1年後に中止された。翌世紀にわたって数多くの提案が出されたが、英仏の企業による合弁会社が1986年1月にその計画を任されるまで、どの提案も成功しなかった。世論は車が通行できるトンネルを支持していたが、これは換気の問題や事故に対する懸念を喚起した。代わりに、乗客は列車で移動するか、特別に設計された電車の貨車に車を乗り入れるかのどちらかができた。

英仏海峡トンネルは、イギリスのケント州フォークストンとフランスのパ・ド・カレー県コケルを結ぶことになる、31マイルの海底トンネルを掘る必要があった。完成するのに6年かかり、13,000人が工事に従事した。海峡トンネルは、1994年に英国女王と当時のフランス大統領フランソワ=ミッテランによって開通された。

2017年には、約350本の列車が毎日トンネルを通過し、平均28,500人の乗客、7,000台の車両、140台の長距離バスと、61,500トンの貨物を運んだ。

◀ 解 説 ▶

7. 空所の前に was という be 動詞があり、空所後には文の要素になるもの(名詞か形容詞)が見当たらないことから、空所には過去分詞が入って受動態を作っていると分かる。さらに文意も考えると、空所より少し前にある but の前で「実際にこのようなトンネルを建設しようとする最初の試みは1881年に始まった」とあることから、but 以後は「計画が頓挫した」といった内容になると推測できる。したがって、正解は A. abandoned 「中止された、断念された」である。

8. 空所前には be 動詞があり、空所後に the project という名詞があるため、空所に名詞を入れることはできない。そうなると目的語を取る動詞、digging がまず候補に挙がるが文意がつかない。次に過去分詞、つまり受動態の場合を考えてみると、be done の後ろに名詞を置くことができるのは、SVOO 型か SVOC 型を取れる動詞だけである。したがって、正解は I. awarded. award A B 「A に B を与える」は、B に「賞・メダルなど」を置くのが一般的だが、本問のように「契約や計画など」を置くこともできる。

9. 文構造を分析すると、空所後の favored が主たる述語だと分かる。空

所の前は Public とあるが, the がついていないことから名詞の「大衆」という意味ではなく, 形容詞として使われていると分かる。したがって, 空所は public が修飾する名詞になるので, 文意も検討すると正解はキ. opinion が最適。public opinion 「世論, 世論調査」

10. 空所前に specially という副詞, 空所後には train wagons という名詞があることから, 空所は形容詞のはたらきをする単語だと分かる。選択肢中で形容詞のはたらきをするのは done 形の過去分詞か doing 形の現在分詞だが, 文意に最も合うのはエ. designed 「設計された」である。specially designed train wagons で「特別に設計された電車の貨車」という意味になっている。

11. 空所を含む文の構造を分析すると, 空所前の required が主たる述語だと分かる。require は他動詞で「～を必要とする」という意味だが, 空所の後に a 31-mile undersea tunnel という名詞があることに注目する。この形に適合し文意がつながるのは, オ. digging である。本文では a 31-mile undersea tunnel が dig 「～を掘る」の目的語になり, digging 以下全体が required の目的語になっている。意味は「31 マイルの海底トンネルを掘ることを必要とした」となる。

12. まず, 空所の前の and が何をつないでいるかを考える。選択肢中には動詞の原形は含まれていないので, complete と空所をつないでいる可能性はない。空所後には the work という名詞があることから, and は述語 took と空所をつないでおり, 空所は目的語を取る他動詞の過去形だと分かる。したがって, 正解はカ. involved 「～を必要とした」である。

III

解答

13-エ 14-イ 15-ア 16-イ 17-ア 18-ア
19-ウ 20-ウ

◀ 解 説 ▶

13. 「無償給食の配布は先週金曜日からはじまったが, 来週土曜日まで続くだろうと思われる」空所の後ろに to continue という to do 形があることに注目。expect A to do という形で「A が～するのを期待する, 予想する」という意味になるが, この表現は目的語を伴うことに注意。すると本問は A is expected to do という受動態の形になっていると分かる。よって, 能動態の形になっているイ. has expected は候補から外す。次

に空所直前の and がつなぐものを考える。ア. expected が入るとすると、直後が to do になっていることよりこの expected は過去形ではなく過去分詞形でなければならないが、and より前に過去分詞形はない。よって不適。ウ. have been expected が入るとすると and は述語同士をつなぐことになるが、主語が The distribution と3人称単数になっていることに矛盾する。したがって、正解はエ. is expected である。

14. 「彼が授業を休んだ理由は、今朝頭が痛かったからだ」空所の後ろに注目すると完全な文になっていることから、不完全文を導くウ. what とエ. which は不適。あとは主語に注目する。The reason と he was absent from class の間には関係副詞 why が省略されているので、主語の本体は The reason である。よって、正解はイ. that である。“The reason is that SV.”で「理由はSがVするということだ」という意味。that は because で代用可だが、since にすることはできない。

15. 「ファイルを閉じたままにしてしまったので、誰も中身を見ることができなかった」空所の前に I left the file とあることから、leave OC 「OをCのままにしておく」を作っていると分かる。SVOC型の文はOとCに主述関係が成立するので、正解はア. closed である。イ. closing 「閉じている」でも訳語だけ見ると当てはまりそうだが、close は他動詞で「～を閉じる、閉める」という意味なので、本問の場合 close の目的語がなく、また「～を閉じる」の主体が the file になってしまうので不適。

16. 「この町には野球チームが3つあって、その中でも私たちのチームが一番だ」空所の後ろは完全な文であることから、エ. which は不適。次に、ウ. that は接続詞か関係代名詞の可能性が考えられるが、接続詞である場合、that 節は全体で名詞節になってしまうため不適。関係代名詞だと後ろは不完全文でなければいけないし、直前にコンマを置く非制限用法(継続用法)で使うことはできないのでやはり不適。残る2つは意味から考える。ア. in that だと in that SV で「SがVするという点で」という意味なので、文意が通らない。したがって、正解はイ. of which である。文の後半は元々 Ours (=Our team) is the best of the three baseball teams. であり、of the three baseball teams が of which に代わって節の頭に出た形。“前置詞+関係代名詞”は文の要素にならないので、その後ろには完全文が置かれるということも覚えておきたい。

17. 「その女性の同僚のうちの一人は兵庫出身で、もう一人は奈良出身、そして残りは皆大阪出身だった」 ウ. the one を選ぶと、既出の「兵庫出身の同僚」のことを指すことになるので、文意が合わず不適。その他は全て other が含まれている。other は可算名詞なので必ず“冠詞 (a, an, the)” か“複数の s” が付く。よってイ. other は不適。残る 2 つは“それ以外にまだ残っているか”が決め手となる。それ以外にまだ残っていれば another, それ以外にもう残っていなければ the がつくので the other となる。本問の場合、the others were from Osaka. とあり、まだ残りがいることが分かるので、正解はア. another である。ちなみに the others という形は、the がついていることから“それ以外にもう残っていない”かつ複数形なので、「他の残り全て」という意味になる。

18. 「このプリンは、特に冷蔵庫で冷やしておくとき甘い」空所の前の tastes に注目。文全体の構造から、この tastes が主たる述語であると分かる。動詞の taste は後ろに補語 (= 形容詞) を置くので、ア. sweet が正解である。イは副詞で「甘く」、ウは名詞で「甘さ」、エは名詞で「甘い菓子」

19. 「自分が見たものにもあまりにも衝撃を受けたので、アンはしばらくの間身動きもせずに立っていた」コンマ後に Ann stood motionlessly for some time. という完全文があることに注意。空所にア. All を入れると、完全な文と完全な文をコンマでつなぐことになってしまうので不適。文と文をつなぐ時は、原則的に接続詞か関係詞が必要である。エ. What を入れると、コンマ前までで名詞のかたまりになり、文構造が成立しないので不適。残るはイ. It とウ. Such だが、いずれにせよ 2 文がコンマでつながっている構造の不自然さに注目する。そこで、コンマの位置には接続詞 that が省略されていると考える。イ. It が空所に入るとすれば、(that) Ann stood motionlessly for some time 全体が真主語になる形式主語構文ということになるが、文意が「アンがしばらくの間身動きせずに立っていたということは、自分が見たことに対する自分の衝撃だった」と通じないので不適。正解はウ. Such である。“A is such that SV.” で「A は S が V するほどだ、A の程度が甚だしいので S は V する」という意味だが、本問のように“Such is A that SV.” と倒置されることもよくある。この構文の that は接続詞なので省略できる。また、この構文の A には人の感

情を表す名詞が置かれることが多い。

20. 「彼の話は、その発展途上国で何が起きているかを理解するためには傾聴に値する」 空所の前が His story is worth となっており、選択肢は全て *doing* から始まっていることから、*A is worth doing* 「A は～する価値がある」という構文になっていることが分かる。この構文は、*doing* の目的語が文の主語 A という、いわゆる循環構文 (tough 構文) になることに注意。つまり *doing* の部分は目的語がない不完全な形にする必要がある。したがって、正解はウ. *listening to* である。*A is worth doing* は It is worth *doing* A という形でも表せるので、本文は It is worth *listening to* his story to understand what is happening in that developing country. とも言える。

IV 解答 21-エ 22-イ 23-ア 24-ア

◀ 解 説 ▶

21. 「エマはトムが病気なので彼の代理をするよう頼まれた」 fill in for ~で「～の代理をする、代行する」という意味なので、エ. 「エマはトムが病気なので一時的に彼の仕事をするように頼まれた」が正解である。ア. 「トムが病気だったので、エマは彼に何か食べ物を作るように頼まれた」イ. 「トムが病気なので、エマは彼を幸せにするよう頼まれた」 ウ. 「エマはトムが病気なので彼の病状を改善するよう頼まれた」
22. 「売上が減少したため、その会社は以前のやり方に戻った」 選択肢では、decrease 「下がる」が fall, decline, drop で言い換えられており、old 「以前の」は conventional 「従来の」、former 「以前の」、traditional 「慣習的な」で言い換えられている。よって、go back to ~ 「～に戻る」の言い換えが決め手。アの abandon は「～を捨てる、やめる」、ウの review, エの revise は「～を見直す」という意味なので、正解はイ. 「売り上げが落ち込んだのでその会社は以前のやり方に戻った」である。ア. 「売り上げが落ち込んだので、その会社は従来のやり方をやめた」 ウ. 「会社の売り上げが減少したので、その会社は以前のやり方を見直した」エ. 「会社の売り上げが落ちたので、彼らは従来のやり方を見直した」
23. 「パティは夏休み中メアリーと連絡を取り合うと約束した」 keep in

touch with ~ 「～と連絡を取り合う」という意味なので、正解はア。「パティは夏休みの間メアリーと定期的に連絡を取る約束をした」である。イ。「パティは夏休みの間メアリーの家に泊まる約束をした」 ウ。「パティは夏休み中もメアリーの手伝いを続けると約束した」 エ。「パティは夏休みの間にメアリーと旅行すると約束した」

24. 「トムはだれが出席するのか分かった後、パーティーの約束を取り消そうとした」 back out of ~ 「(約束)を破ろうとする, ~から手を引く」という意味なので、ア。「誰がパーティーに行く予定なのかが一旦分かると、トムは行く約束を撤回しようとした」が正解。once SV「いったんSがVすると」, withdraw「～を撤回する, 取り消す」, commitment「約束」と言い換えられている。イ。「トムはパーティーに誰が出席するのかを知ると、誰にも気付かれずに帰ろうとした」 ウ。「トムは誰が出席するのかを知ってから、パーティーのテーマを変えようとした」 エ。「トムは誰がそこに来るかを知ってからパーティーに招待されようとした」 get done は「～される」という意味で、受動態の“動作・変化”を表す。

V **解答** 25-ウ 26-ウ 27-ア 28-ウ 29-ウ

◀ 解 説 ▶

25. (a)「長期にわたる乾燥」 (b)「昨日の雨はやっと、この地域における百年ぶりの長期の干ばつを終わらせた」 ア. absence「欠席, 不在」 イ. crisis「危機」 ウ. drought「干ばつ」 エ. shortage「不足」

26. (a)「必要以上もしくは期待される以上のものを与えようとする自発性を示すこと」 (b)「スーザンは常に他人を助けることに時間を費やす気前のよい女性だった」 ア. coherent「筋の通った, 理路整然とした」 イ. favorable「好印象の, 好意的な」 ウ. generous「気前のよい, 寛大な」 エ. moderate「節度のある, 穏やかな」

27. (a)「地中に保存されていた過去の動植物の残骸」 (b)「博物館は、その新たに入手した化石は5,000年以上前のものであると認定した」 ア. fossil「化石」 イ. heritage「遺産」 ウ. provision「提供, 条項」 エ. surplus「余剰」

28. (a)「重要なものに気付いたり見たりすること」 (b)「その科学者は、

時間をかけてその動物の行動におけるいくつかの変化に気付くことができ
た」 ア. analyze「分析する」 イ. demonstrate「実証する」 ウ.
observe「観測する、(観察して) 気付く」 エ. predict「予言する」
29. (a)「主に指または手で何かをしっかりと押さえること」 (b)「少女は
診療所に入ると、母親の腕をぎゅっとつかんだ」 ア. drag「引きずる」
イ. fold「(腕を) 組む」 ウ. squeeze「強く握る」 エ. wrap「包む」

VI

解答

30-エ 31-ア 32-ウ 33-カ 34-ウ 35-イ
36-ウ 37-ア

◀ 解説 ▶

[A] 30・31. (The taxi got stuck in traffic, which) caused Paul to be late for the meeting by (half an hour.) 日本語と照らし合わせると、空所直前の which は前文の内容全体を受け「そのこと」という意味になっていると分かる。選択肢には which 節中の述語になれるものが caused しかないの、cause A to do「A が～する原因となる、A に～させる」を作ると考え、A に Paul、to do には to be late for the meeting を置く。最後に、“差”を表す by を half an hour の前に置けば文が完成する。

[B] 32・33. (John and George have) a tendency to complain compared with (their colleagues.) 「～しがちだ」は tend to do がよく使われるが、選択肢では tendency「傾向」という名詞形になっていることから、have a tendency to do「～する傾向がある」を作り、to do は to complain とする。complain「不満を言う」は自動詞なので後ろに目的語はいらない。「～と比べると」は compared with [to] ～で表せるので最後に置けば文は完成する。

[C] 34・35. (As the accounting software became easier to use, the) number of shops purchasing it increased (sharply.) 選択肢を見ると述語になれるのは increased しかない。increase/decrease は主語に“大きさ・数・量など”を取るの、主語は number になると分かる。the number of A で「A の数」という意味なので A には shops を置き、shops の後ろに purchasing it「それ(=その会計ソフト)を購入する」を置くと shops を後ろから修飾できる。述語の increased をその後ろに続ければ文が完成する。

[D] 36・37. (Not) until recently did Nancy become aware (how dangerous what she had been doing was.) 日本文に「～になって、ようやく」とあり、文頭が Not になっていることに注目する。「～して初めて…」は not … until ～が基本形だが、“Not until ～”を文頭に出すこともできる。ただし、その後に続く文は倒置させ疑問文の語順にしなければならない。本問の場合は「最近になって、ようやく」を Not until recently で表し、その直後に did Nancy become という疑問文形を置く。「～に気付く」は become aware ～で表せるので、その後ろに aware を置けば文が完成する。

VII

解答

問1-エ 問2-ア 問3-ウ 問4-イ 問5-ア
問6-イ 問7-イ・キ

◆全 訳◆

《ゾウの生態》

ゾウは現存する最大の陸生動物である。その体の大きさと、皮膚の厚さ、丈夫さが、他のほとんどの野生動物から彼らを守っている。ゾウは恐れるべき敵がほとんどいないので、通常は温厚でのんびりしている。彼らは子供が危険にさらされると攻撃的になる。しかし、彼らはお互いに深い愛情を示し、メスは家族の群れの一員として一生を過ごす。これは数世代にわたる親族で構成されており、時折他の群れのゾウとつがいになることによって、追加される。

生まれたとき、ゾウの赤ん坊は体長約3フィート(0.9メートル)で、体重は約200ポンド(91キロ)である。羊毛に似たまばらな毛並みは次第に消えていく。子ゾウは母親に約2年間授乳され、さらに2年間母親の保護下に置かれたままである。メスのゾウは4、5年に1度子供を産む。

典型的なゾウの群れには、あらゆる年齢のメス(cow)が20頭から40頭いる。養育されているオスだけが、メスゾウと一緒にいる。リーダーは通常成熟したメスゾウである。大人のオス(bull)は通常単独で生活するか、もしくは最大7頭までの全てオスゾウの一時的な集団の中で暮らす。

ゾウは昼と夜の両方で活発である。ただし、通常日中の最も暑い時間は休む。その間、家族の群れのメンバーは、発見できるあらゆる日陰で身を寄せ、立ったまま眠る。日没の頃に、群れは水を飲み水浴びをするために、

最寄りの川や、湖、水たまりまで歩いて行く。そのペースは、非常に幼いゾウや非常に高齢のゾウでもついていけるように設定されている。赤ん坊を連れた母親が後れを取っても、群れの他の数頭のメンバーがその親子を守るために残るだろう。

群れがゆっくりと歩く間、ゾウたちは若い木を押し倒すか、それらを牙で根こそぎ引き抜くかして、その柔らかい根、小枝、葉を食べる。広々とした草地では、彼らは鼻で草の束を集めて口に詰め込む。時々、群れが農夫の畑に侵入することもあるが、ほとんどの群れは、村に入ることも小屋を破壊することも決してない。

一つの群れが1シーズンの間に半径50マイル(80キロ)にわたって移動することもある。群れが2日間続けて同じ場所で寝ることはめったにない。多くの家族の群れで構成されたゾウの大群が、同じルートを通して新しい餌場へ向かう様子が、飛行機から撮影されている。

◀ 解 説 ▶

問1. ア. 「ゾウは温厚でのんびりしているので、決して敵対的な行動はしない」第1段第4文(They become aggressive…)に、「子供が危険にさらされたときは攻撃的になる」とあることに矛盾。

イ. 「ゾウは体の大きさが非常に大きいという理由だけで他の野生動物のほとんどから守られている」第1段第2文(Their size and…)参照。主語はTheir size「体の大きさ」とthe thickness and toughness of their skins「皮膚の厚さ、丈夫さ」の2つが挙げられ、この2つにより外敵から守られているとあるので矛盾。

ウ. 「ゾウは暴力的な行動をとる傾向があるため、ほとんど敵がいない」第1段第3文(Since they have…)に、「ゾウは通常温厚でのんびりしている」とあることに矛盾。

エ. 「時々、他のグループとの交流を通じて、新しいメンバーが群れに加わることもある」第1段最終文(This is made…)後半に、with occasional additions by mating from other herds「他の群れのゾウとつがいになることによる不定期の追加を伴って」とあることに一致。これが正解。

問2. ア. 「生まれてから約2年で、子ゾウは母親の世話から独立する」第2段第3文(The young elephant…)後半参照。「子ゾウは2年間授

乳される」とあるが、その後も remains under her protection for two years more 「さらに2年間母親の保護下に置かれたままている」とあることに矛盾する。したがって、これが正解。

イ。「時間の経過とともに、ゾウの赤ちゃんの毛の量は減少する」第2段第2文 (Its sparse coat …) に一致。

ウ。「ゾウの赤ちゃんの体毛は羊毛のような質感だ」第2段第2文に woolly hair 「羊毛に似た毛」とあることに一致。

エ。「各ゾウ群のメスは、4年に1回程度出産する」第2段最終文 (Female elephants bear …) に一致。

問3. ア。「養育されているオスのうちの1頭が群れのリーダーになる傾向がある」第3段第3文 (The leader is usually …) に「リーダーは通常メスゾウである」とあることに矛盾。「養育されているオス」は同段第2文 (Only males that …) に言及があるが、「メスゾウと一緒にいる」例外的なオスゾウとして挙げられているにすぎない。

イ。「メスゾウと同じ群れに留まっているオスゾウは、広範囲にわたる様々な役割を果たしている」第3段第2文に矛盾。メスゾウと行動を共にするオスゾウは子供であり、何らかの役割を果たしているわけではない。

ウ。「全てオスの群れにいるゾウの数は、通常の家畜のゾウの群れにいる数の半分よりも少ない」第3段最終文 (Adult males …) 参照。ここでは、大人のオスゾウが集団で暮らす場合は up to seven members 「最大で7頭」とある。同段第1文 (The typical elephant …) では、from 20 to 40 females (cows) 「20頭から40頭のメスゾウ」とあることから、本文に一致している。したがって、これが正解。

エ。「オスゾウの中には、単独で生活するものもいれば、永続的に一緒に生活する最大で7頭の小集団の中に留まるものもある」第3段最終文に、temporary all-male groups 「一時的な全てオスの集団」とあることに矛盾。

問4. ア。「暗くなった後、ゾウは群れをなして最も近い水源に向かって歩き始める」第4段第3文 (Toward sundown, the …) 参照。ここでは Toward sundown 「日没の頃、日没に向かって」とあることから、After it gets dark 「暗くなった後」と矛盾する。

イ。「ゾウの群れは、非常に高齢のメンバーであっても同じペースで進む

のに十分ゆったりとした速度で、水源に移動する」第4段第3・4文 (Toward sundown, the … can keep up.) に一致する。これが正解。

ウ。「母ゾウと赤ん坊がついて来られなくなると、群れ全体が立ち止まって彼らを待つ」第4段最終文 (If a mother …) 参照。ここでは、several other members 「他の数頭のメンバー」が残るとあるので、the whole herd stops 「群れ全体が立ち止まる」とは矛盾する。

エ。「ゾウは昼寝をすることなく、一日中何かをするのに常に忙しい」第4段第2文 (During that time, …) 参照。日中の最も暑い時間、群れは日陰で休み、sleep standing up 「立ったまま眠る」とあるので矛盾。

問5. ア。「ゾウが群れをなして農夫の畑に入ることは知られていない」第5段最終文 (At times, a …) に「時々、ある群れが農夫の畑に侵入する」とあることに矛盾している。したがって、これが正解。

イ。「人々の住居に決して被害を与えないというのが、ほとんどのゾウの群れの特徴である」第5段最終文参照。時に農夫の畑に侵入することはあっても、most will never enter villages or destroy huts. 「ほとんどの群れは、村に入ることも小屋を破壊することも決してしない」とあることに一致する。

ウ。「ゾウが柔らかい根や小枝、葉を食べるのは普通のことだ」第5段第1文 (As the herd …) 後半の to feed on the tender roots, twigs, and leaves に一致する。

エ。「ゾウが鼻を使って集めた草の束は口の中に押し込まれる」第5段第2文 (In the open …) に一致。

問6. ア。「飛行機から撮影した写真によると、多くのゾウの群れが餌を取るために同じ経路を通過して移動する」最終段最終文 (Pictures have been …) に一致する。

イ。「航空写真によると、多くの様々な家族のゾウの群れが、他のゾウと戦うために同じ経路を通過して移動すると分かっている」最終段最終文参照。in order to fight with other elephants 「他のゾウと戦うために」という記述は一切見られない。したがって、これが正解。

ウ。「ゾウの群れが2日連続で同じ休息場所を選ぶのは珍しい」最終段第2文 (Seldom does the …) に一致する。本文では two days in succession となっているのが、ここでは two successive days と言い換え

られている。

エ. 「ゾウの群れの1シーズンの間の移動半径が50マイルに達する場合がある」最終段第1文(A herd may …)に一致する。

問7. ア. 「体の大きさだけでなく、その分厚い丈夫な皮膚が、ゾウをほとんどの野生動物の攻撃から守っている」第1段第2文(Their size and …)に一致。A as well as B「BだけでなくAも」

イ. 「ゾウはいかなる状況においても敵対的になることは決してない」第1段第4文(They become aggressive …)参照。「子供が危険にさらされた時は攻撃的になる」とある内容に矛盾。したがって、これが正解。

ウ. 「ゾウの間での愛情は深く、メスは生涯ずっと集団で生き続けることができる」第1段第5文(However, they show …)に一致。

エ. 「大人のオスゾウはたとえ一緒に暮らしていても、その集団はほんの限られた期間しか続かない」第3段最終文(Adult males …)に一致。

オ. 「日中は、群れに属するゾウは身を寄せ合って眠る」第4段第2文(During that time, …)前半に一致。

カ. 「日中、ゾウは直射日光が遮られている場所で立ったまま眠る」第4段第2文(During that time, …)後半に一致。本文ではshade「日陰」となっているのが、areas where direct sunlight is blocked「直射日光がさえぎられている場所」と言い換えられていることに注意。

キ. 「ゾウの群れが1シーズンに50マイル移動するのは不可能だ」最終段第1文に矛盾。したがって、これが正解。